

採択理由

プログラム名： 国際共同研究の推進
課題名： 結核とリーシュマニアの新規治療標的の探索
提案機関名： 独立行政法人理化学研究所

コメント

本提案は、アジア・アフリカ諸国で問題となっている結核やリーシュマニア感染症対策に向けて、その治療に有効かつ薬剤耐性が出現しない治療薬の開発を念頭に、その標的となり得る、特に病原体の増殖や発症に関与する宿主側遺伝子を見出すことを最終目標とする取組である。この目標に向けて、共同研究の相手機関で作製された、特異性を有する免疫系の遺伝子改変マウスを用い、当該の病原体を感染させて得られる生体サンプルについて、日本側が有する大規模トランスクリプトーム解析で感染ステージ毎に宿主―病原体相互作用を検討し、関与する宿主側遺伝子及び関連する情報伝達経路を同定しようとする提案であり、そのストラテジーと設定目標から実効性があり、成果が期待されると評価された。相手機関の役割も明瞭であり、日本側機関が有する技術・能力と相まって、相互互恵によるネットワーク形成と共同研究が進められ、将来の発展につながることを期待される。

なお、本課題の実施に当たり、国際共同研究として実施する意義やその有効性・必要性をより明瞭に示していくこと、また、南アフリカとの共同研究であるが、将来的には、その他の諸国への連携拡大も視野に展開されることが望まれる。